# 紋枯病の防除をしましょう！

令和８(2026)年 11 月 17 日
安足農業振興事務所

令和８年産では一部のほ場で紋枯病による収量・品質低下などの被害が出ました。前年の被害株の稲わらや植物残さに残った菌核が感染源となり病気が広がるため、令和８年産で多発した水田では特に注意し、箱施用剤の使用等適切な防除を実施しましょう。

## １　被害の特徴

・水ぎわの葉鞘に中心部が灰色の楕円形の病斑ができ、上位葉に感染が広がる。
・病斑が上位葉鞘まで進展すると減収や白未熟粒の発生を招き、止葉葉鞘まで達すると被害が大きくなる。
・激しくなると茎葉が枯死し、倒伏しやすくなる。

## ２　伝染経路

（１）前年の被害株に形成された菌核が落下、土壌中で越冬する。
（２）代かき時に水面を植物残渣とともに浮遊し、移植した稲に付着・感染する。
（３）菌糸が葉鞘から内側に侵入し、病斑を形成する。

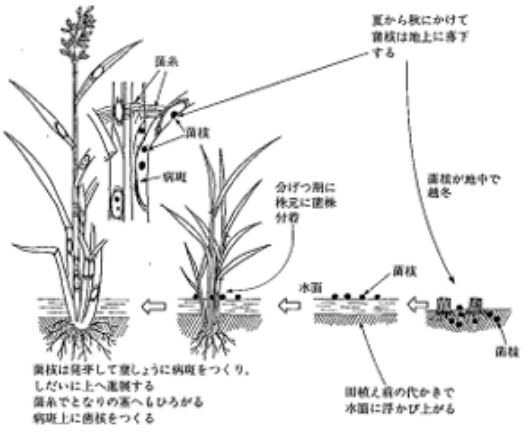


図　イネ紋枯病の伝染経路
「出典　大畑貫一/著　稲の病害-診断・生態・防除- 」

## ３　多発条件

（１）窒素過多や密植による過繁茂。
（２）高温多湿条件（発病適温 30～32℃前後)。
（３）前年多発したほ場や稲わらが流入したほ場。

## ４　防除

（１）窒素肥料の過剰施用や密植を避け、過繁茂を防ぐ。
（２）代かき時の浮遊残さの除去。
（３）薬剤防除：箱施用剤の使用（毎年病気が出るほ場や「にじのきらめき」を作付する場合は箱施用剤で予防する)。
粒剤：通常、出穂 20～30 日前に施用（各剤に適した時期に使用する)。
茎葉散布剤：穂ばらみ期～出穂期。多発時には追加散布。

表　紋枯病に登録のある主な薬剤

| 薬剤名 | 使用量 | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 |
|---|---|---|---|---|
| スタウトアレスモンガレス箱粒剤 | 1kg/10a | 移植時 | 1 回 | 側条施用 |
| | 育苗箱(30×60×3 ㎝、使用土壌約 5L)1 箱当り 50g | は種時(覆土前)～移植当日 | | 育苗箱の上から均一に散布する。 |
| | 高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約 5L)1 箱当り 50～100g) | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ルーチンエキスパート箱粒剤 | 育苗箱(30×60×3 ㎝、使用土壌約 5L)1 箱当り 50g | は種時(覆土前)～移植当日 | 1 回 | 育苗箱の上から均一に散布する。 |
| | 高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約 5L)1 箱当り 50～100g) | 移植 3 日前～移植当日 | | |
| モンガリット粒剤 | 3～4kg/10a | 収穫 30 日前まで | 2 回以内 | 湛水散布 |

○令和８(2026)年 11 月 13 日現在の登録内容。農薬を使用する際はラベルをよく読み、適正に使いましょう。